

固定通信システムの 運用状況

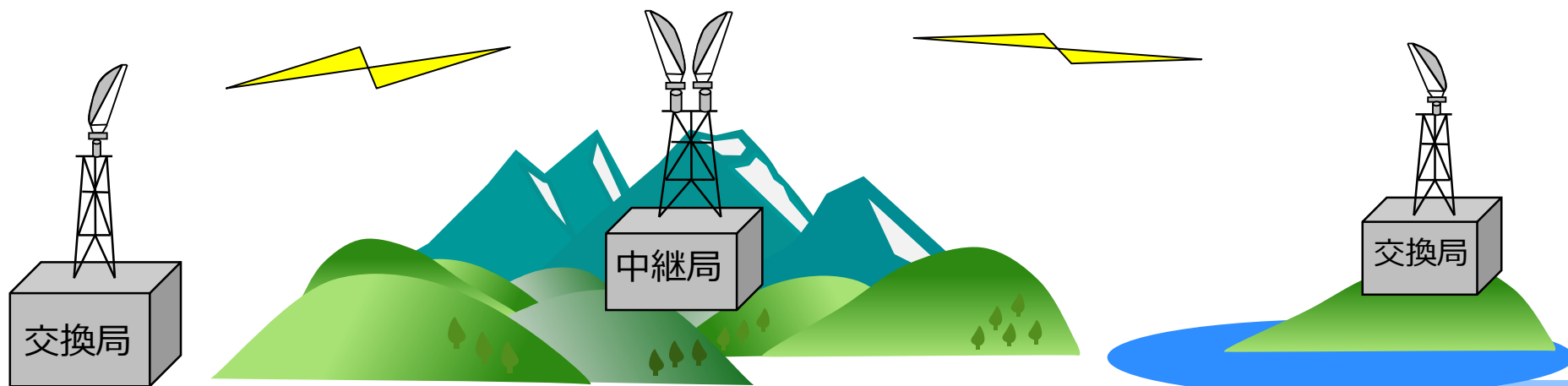
2020年9月28日

日本電信電話株式会社

中継系固定通信システムの運用状況

- 中継系固定通信システムは、地理的条件や経済的な理由により有線敷設が困難なエリアへ中継伝送路を提供するために活用している。
- 日本電信電話公社時代より、長距離中継回線向けに4, 5, 6GHz帯を、短距離中継回線向けに11, 15GHz帯を活用してきた。
- 中継伝送路の光ファイバー化によりルート数は減少しているものの、NTT東日本・NTT西日本においては、現在も6, 11GHz帯を活用しており、特に11GHz帯においては約120局が運用中である。
- 今後も中継系固定通信システムは**継続して運用する予定**である。

<運用イメージ>



加入者系固定通信システムの運用状況

- 有線敷設が困難なエリアや携帯電話サービス提供エリア外となるような超ルーラルエリア等において、加入電話サービス等を提供するために活用している。
- 日本電信電話公社時代より、60M～26GHz帯までの様々な周波数帯を活用してきた。
- 中継系固定通信システムと同様に、ルート数は減少しているものの、NTT東日本・NTT西日本においては、60M, 2G, 7.5G, 18GHz帯を現在も活用しており、特に18GHz帯においては約60局が運用中である。
- 今後も加入者系固定通信システムは**継続して運用する予定**である。

<運用イメージ>

